

公表

事業所における自己評価総括表(放課後等デイサービス)

| | | | |
|----------------|-------------------------|------|---------------|
| ○事業所名 | 社会福祉法人 青嵐会 はあとキッズ i 新山口 | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年 11月 1日 | | 2025年 12月 29日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 31世帯 | (回答者数) 23世帯 |
| ○従業者評価実施期間 | 2026年 1月 8日 | | 2026年 1月 17日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 7名 | (回答者数) 7名 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年 2月 1日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 児童が体を動かすことができるスペースが室内に十分にある。 天候、季節に関係なくのびのび活動できる。 すぐ隣に公園があることも、体を動かして遊ぶのによい環境である。 | あえてデジタルツールを用意せずに、体を動かすレクリエーションや体づくりを行っている。 | 用具等を使う運動も取り入れ、ルーティン化していく。 広さを活用した新しいレクリエーションを考えて、ストレスの発散や体づくりが楽しくできるようにする。 |
| 2 | 法人内にいろいろな事業所があり、療育の面で連携でき、職員の研修においても多角的に情報交換できる。 | ヒヤリハット報告や研修で、定期的に情報交換できている。 困っていることに対して意見をもらっている。 法人内の農園に行くことができ、体験的な療育ができています。 イベントに参加している。 | 学童や保育園との交流をすすめていく。 法人主催のイベントに参加して地域の人々と接する。 |
| 3 | 児童にいろいろな体験を積んでもらっている。 | 博物館等の地域資源を活用して、見聞を広めている。また、体験型の施設も利用している。外出先でのマナーも支援内容に含まれる。 クッキング・制作を頻繁に行い、成功体験を積んでもらっている。 | さらに体験が積めるように地域資源を見つける。 家庭では体験しにくいことを活動プログラムに入れる。 |

| | 事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 利用者の多様な特性、幅広い年齢に対応するのが難しい。 | 施設の構造により、児童の気持ちが不安定になったときのクールダウンの場所がない。 年齢層が広く、体格の大きい児童がいるが、対応できる職員が少ない。 基準の職員数だと、幅広いニーズにこたえられない。 | 工夫して区切られた空間を作る。 個々の障がいに合わせて対応技術を、研修等を通して磨いていく。 専門職(OT等)の配置。 |
| 2 | | | |
| 3 | | | |